

京風教育改革に注目

京都市教委

感謝の心養う

トイレ洗い

やる気起こす

一斉テスト

男子トイレで便器磨きに精を出す子どもたち(京都市右京区の市立山ノ内小で)

「トイレ磨きから学力向上まで」を合言葉に、京都市教委が取り組んでいるユニークな施策が、教育関係者の注目を集めている。トイレ掃除を通じての人間形成、子どもものやる気を引き出す中学2、3年生の一斉テスト、暮らしている町の知識向上を目指す「ジュニア京都検定」の受験など、意欲的なハカリキユラムが並ぶ。5年前に166件だった教育現場への視察は、2005年度には全国から442件と約2.5倍に急増している。



視察、5年前の2.5倍に

【便きよう会】

「素手で便器に手を入れ、洗ってみよ」。毎月第2土曜の朝、京都市内の小中学校1校のトイレに教員と子ども、保護者が集まり、掃除を始める。約3時間、みんなが便器に顔を近づけ、たわしで磨く。

教諭ら約130人で立ち上げた「便きよう会」が主催。自動車用品販売会社相模原の辻山秀三郎さんがメ

ンバーに「どんなに才能があっても、傲慢な人は人を幸せにできない。人は謙虚なのが一番。それを学ぶのがトイレ掃除」な

どと講演したのをきっかけに、昨年から活動が始まった。1年半で延べ15校で開き、約2000人が参加した。当初、児童がトイレ掃除をする小学校は5校だったが、現在では全181校の9割が実施。子どもの

一人は「最初はくさかったけど、汚れが落ちると、うれしくて夢中になった」と話す。市教委の担当者は「手

を便器に突っ込む瞬間、人生観が変わる。感謝の心が生まれる」と効果を語る。

【ジュニア京都検定】大人気の「京都検定」にあやかり、小、中学生向けの「ジュニア京都検定」を11月に初めて実施する。市教委は、教員らで公式テキストを作って、市立小4、6年生約3万5000人に配布。5、6年生は学校単位で無料で受けられる。同検定推進プロジェクト委員を務めた服飾研究家市田ひろみさんは「テキストは大人も楽しめる。子どもは地元の京都を身近に感じるでしょう」と語る。

中3の長男を持つ母親(45)は「思ったより試験ができた息子は、ドリルで復習している」と話す。伏見区の向島東中が3年約100人に実施したアンケートでは、9割が「勉強の仕方がわかった」「やる気が出た」と答えた。中学校校長会のメンバーは「これまでも手作りテストをしていたが、成績の分析や結果の生かし方が不十分だった。回を重ねて全体のレベルアップができれば」と期待する。

一般向けと違い、知識だけでなく、京都にまつわる体験をつづった作文を課す。各校では公式テキストで勉強を始め、廊下の立て看板に週替わりで問題を掲示する学校もあるという。小学5年の男児(10)は「家で時間があるときにテキストをよく見ている。早く受験したい」と目を輝かす。

【業者と共同で】市立中学80校の全2、3年生に対する一斉テストが今年5月に始まった。校長らが出題範囲を決め、業者と共同で5教科のテストを作成。中3は年4回、中2は年1回実施、1か月後に届く成績分析表で自分がどの位置にいるか、各教科の弱点は何かかわかり、復習用のドリルもある。